

「漁師を弟子にする」

2015年05月19日

ルカによる福音書 5章1節～11節。イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼバダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

主イエスは押し寄せてきた群衆と距離を置くため、シモン（ペトロ）の舟に乗り、少し漕ぎ出してから座わり、岸辺に群がる人々に教えられた。話終えた後、群衆は解散したのであろう、ペトロに「沖へ漕ぎ出し網を降ろし、漁をなさい」と言われた。ペトロは「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と応じている。ゲネサレト（ガリラヤ）湖の漁は夜にするのが普通である。昨夜は一匹の魚も獲れなかった、この時間に獲れるはずがないと考えるのがプロの漁師の判断である。しかしペトロは、その判断を捨て、主イエスの求めに応じた。舟の上で話される教えを聞いて、この方の言葉に従ってみたいと思ったからであろう。沖に出て漁をすると多くの魚がかかり、網が破れそうになった。仲間に加勢してもらい、網を上げると、舟は魚でいっぱいになり、沈みそうになった。

これを見たペトロは、主イエスの足もとにひれ伏し「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と叫んだ。ペトロは何も罪を犯してはいないのに「わたしは罪深い者なのです」と言っている。ペトロは主イエスに「聖なる方」を見たのである。人は「聖なる者」に触れる時、自分の汚れを認識し、離れなければならないと畏れる。

預言者イザヤは神殿で神に触れた時「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は／王なる万軍の主を仰ぎ見た」と畏れ、自分の汚れにおののいている。ペトロはイザヤと同じ「聖なる者」との出会いを、主イエスに受け止めたのである。イザヤと同じ告白をしている。他の漁師たちも獲れない時間なのに大漁を経験し、驚いた。主イエスは「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」と言われ、ペトロを弟子として招かれた。漁師たちは舟を陸に引き上げ、すべてを捨てて従った。ルカは、ペトロが主イエスの弟子になった契機は思わぬ大漁の経験を通して、主イエスに「聖なる方」を見たことであつたと伝えている。